

第2部 看護部長が考える助産婦の役割

1. 病院の経営主体 (表2-1)

今回回答した看護部長の所属する病院の経営主体は、「市町村」が26.7%と最も多い。次いで「その他の公的医療機関」15.4%、「医療法人・個人」が10.8%となっている。

2. 病院の種類 (表2-2)

病院の種類は、「総合病院 (大学病院を除く)」が79.8%と最も多い。

3. 産科系病棟の構成 (表2-3)

産科系病棟の構成は、「混合病棟」が最も多く43.9%。次いで「産婦人科病棟」43.3%。「産科単独病棟」は11.6%である。

4. 助産婦の採用 (表2-4)

「貴病院では、助産婦を『助産婦』として採用していますか」という問いに、87.6%が「はい」と答えている。「いいえ」と答えている11.8%にその理由をたずねたところ、64.6%が「病院の方針」と答えている。

5. 助産婦のローテーション (表2-5)

「貴病院では、助産婦を産 (婦人) 科病棟以外にローテーションしますか」という問いに、43.5%が「はい」と答えている。

その理由をフリーアンサーで答えてもらった結果、10項目に分けることができた。

- ・ 婦長・看護部長等へのステップアップのため。

表2-1 病院の経営主体

国立 (厚生省)	55	(6.7)
国立 (文部省)	33	(4.0)
国立 (その他)	12	(1.5)
都道府県	79	(9.7)
市町村	218	(26.7)
日赤	50	(6.1)
その他の公的医療機関	126	(15.4)
社会保険関係団体	38	(4.7)
学校法人	39	(4.8)
医療法人・個人	88	(10.8)
その他	72	(8.8)
無回答	7	(1.8)
合計	817	(100.0)

表2-2 病院の種類

大学病院	77	(9.4)
総合病院(大学病院を除く)	652	(79.8)
その他の病院	83	(10.2)
無回答	5	(0.6)
合計	817	(100.0)

表2-3 産科系病棟の構成

産科単独病棟	95	(11.6)
産婦人科病棟	354	(43.3)
混合病棟	359	(43.9)
その他(産科+NICU)	3	(0.4)
無回答	6	(0.7)
合計	817	(100.0)

- ・混合病棟のため看護婦としての仕事も覚えてもらうため。
- ・合併症を持った妊婦・病児のケアができるようにするため。
- ・産科病棟・助産婦業務を外からみることができるようになるため。
- ・視野を広げ、組織的、全体的に物事をみられるようにするため。
- ・マナー防止のため。
- ・人間関係調整のため。
- ・助産婦数が多いため。
- ・助産婦でも業務を安心して任せられないため。
- ・健康上の問題のため。

6. 看護方式 (表 2-6)

「貴病院では、どのような看護方式をとっていますか」という問いに、「チームナーシング方式」が74.9%と最も多い。助産婦自身が仕事がしやすいと答えている「プライマリーナーシング」は、18.6%であった。

また「その看護方式で実践して、助産婦としての仕事は達成されていると思いますか」という問いに、66.5%が「はい」と答えている。

「いいえ」と答えている28.9%にどのような問題があるかをフリーアンサーで答えてもらった。その結果、各看護方式によってそれぞれの意見が出た。

《機能別看護方式》

「助産婦の仕事が達成されている」と答えてはいるが、なかには「要員が少ない」「充分ではない」「入院患者が少ない」などの但し書きがしてある。また、機能別看護方式と受持制の混合型が2施設あった。

「助産婦の仕事が達成されていない」という回

表 2-4 貴病院では、助産婦を「助産婦」として採用していますか

はい	716 (87.6)
いいえ	96 (11.8)
無回答	5 (0.6)
合計	817 (100.0)

その理由はなんですか

本人の希望	4 (4.2)
病院の方針	62 (64.6)
その他	27 (28.1)
無回答	3 (3.1)
合計	96 (100.0)

表 2-5 貴病院では、助産婦を産(婦人)科病棟以外にローテーションしますか

はい	355 (43.5)
いいえ	452 (55.3)
無回答	10 (1.2)
合計	817 (100.0)

表 2-6 看護方式 (複数回答)

機能別看護方式	278 (34.0)
チームナーシング方式	612 (74.9)
プライマリーナーシング(受持制母児看護)	152 (18.6)
その他	7 (0.9)
回答者数	817 (100.0)

助産婦の仕事は達成されていると思いますか

はい	543 (66.5)
いいえ	236 (28.9)
どちらともいえない	6 (0.7)
無回答	32 (3.9)
合計	817 (100.0)

答の中には、「助産婦不足のため機能別で動かざるをえないが、将来的にはプライマリーナーシングをとりたい」と答えている割合が高い。また「助産婦として終始一貫した業務ができない」とことや、「医師がお産をとりあげるため、助産婦は

医師の介助役となっている」という回答もあった。

《チームナーシング方式》

「その場しのぎで一貫したケアができていない」「業務責任の所在が不明確」「将来的にはプライマリーナーシングに変えていきたい」という回答が多い。一方、「助産婦の人員不足」や「若い助産婦が多いためという理由から、プライマリーナーシングに切り替えることができない」という回答もあった。

《機能別・チームナーシング方式》

「継続したケアができない」「他の業務に手をとられる」という意見が多い。また「助産婦が仕事に満足していない」という意見や、「スタッフの意欲の低下」に関する意見もみられた。

《機能別・受持制方式》

「分娩件数が少ないため助産婦の専門性が生かされない」「外来、病棟と一貫した体制が敷かれていない」「三交替制勤務では十分に責任を果たしきれない場合がある」などの意見があった。

《チームナーシング・受持制方式》

「受持制でも、三交替制勤務のため絶えず妊産褥婦と関わるができない」。

《受持制》

「人員不足のため十分なケアを行っているとはいえない」「三交替制のため、母児が不安な時に受持助産婦が対応できないことがある」などの回答があった。

7. 助産婦の専門性を発揮していると思うか

(表2-7)

77.4%の看護部長は、助産婦がその専門性を発揮していると思うと回答している。助産婦の専門性を発揮していると答えている理由は、産科単科、産婦人科でプライマリーナーシングを実施し

表2-7 貴病院では、助産婦がその専門性を発揮して仕事をしていると思いますか

はい	632	(77.4)
いいえ	166	(20.3)
どちらともいえない	1	(0.1)
無回答	18	(2.2)
合計	817	(100.0)

ている、混合病棟であっても助産婦外来、正常分娩管理が定着している、科を問わず保健指導が充実している、産科単科ではないが、研究発表をしているなどである。

一方、専門性を発揮していないと回答している看護部長にその理由をフリーアンサーで回答してもらった。専門性を発揮していないと答えている理由は以下の通りである。

- ・プライマリーナーシングではない。
- ・分娩管理に集中しすぎる、または優先しすぎるあまり、他の管理教育指導が不十分である。
- ・産科医師との関係に問題あり。
- ・助産婦自身に問題あり。
- ・分娩件数が少ない。

8. 助産婦の課題

看護部長が考える助産婦の今後の課題をフリーアンサーで記述してもらったものを、病棟の種類ごとにまとめた。

《産科単独》

- ・プライマリーナーシングの推進。
- ・専門分野の拡大。
- ・合併症を持った妊産婦のケアができること、そのためにはローテーションも必要。
- ・母親学級、保健指導、助産婦外来、乳房外来、訪問指導などの充実。
- ・周産期センターで力を発揮してもらいたい。

- ・研究課題に取り組んでほしい。
- ・新人，実習生指導力，管理能力のアップ。

《産婦人科》

- ・ローテーションをもっと受けて他の分野の勉強をすること。
- ・プライマリーナーシングの推進。
- ・助産婦を育成する助産婦が少ないので増えてほしい。
- ・緊急時の対応やアセスメント能力など幅広い知識を身につけること。

《混合病棟》

- ・産科以外の看護を勉強してほしい。他科で通用するナースになること。
- ・人間性を育ててほしい。
- ・昇格試験に受かるように一般看護の勉強をすること。助産婦は昇格試験に受からない。
- ・プライマリーナーシングの推進。

9. 助産婦への期待

看護部長が助産婦に期待することをフリーアンサーで記述してもらった。その結果を病棟の種類ごとに分類した。

《産科単独》

- ・助産業務に固執しないで，産科以外の分野にも視野を広げてほしい。
- ・専門職としてリーダーシップを発揮してほしい。

い。

- ・受持制母児看護を導入してほしい。
- ・幅広い人間性を身につけてほしい。

《産婦人科》

- ・出生率も低下していることなどから，幅広く看護を学んでほしい。
- ・訪問活動や保健指導，母親学級，助産婦外来などを積極的に行ってほしい。
- ・助産婦の専門性を確立してほしい。
- ・看護婦との人間関係を大切に考えてほしい。
- ・セクショナリズムをなくし，病院全体をみてほしい。

《混合病棟》

- ・助産の技術面のみならず人間的にも幅広い視野と心を持ってほしい。
- ・混合病棟のため看護婦や准看護婦，助手との人間関係を大切にしてほしい。
- ・医師と対等の実力を持ってほしい。
- ・せっかく助産婦になったのだから，すぐに辞めないでほしい。
- ・産科以外の患者の看護を積極的に行ってほしい。
- ・専門職者として自認するのではなく，他者に認められるリーダーシップをとってもらいたい。